

★稲作期間中の寒暖差が大きかった1年！

★秋耕だけでなく、冬耕も実施し雑草対策を！

1 今年度の君津地域の水稲の生育を振り返って

今年度は4月に低温があったことを除き、3月上旬から収穫まで平均気温が高い傾向でした。しかし、栽培期間中の最高気温と最低気温の差も大きかったため、特に育苗期間中は、栽培管理の違いが生育に大きな差をもたらしました。さらに、4月が低温だったため、早植えしたほ場を中心に活着の遅れや初期生育の遅れが認められました。そのため、分けつ数は平年に比べて確保しにくい状況でした。

5月以降は高温条件が続いたため、4月20日頃に移植したほ場の出穂期は平年と比較して2～3日程度早くなりましたが、7月の日照が少なく登熟に時間がかかったことから、成熟期については「ふさおとめ」は8月14日頃から、「ふさこがね」は8月20日頃から、「コシヒカリ」は8月26日頃からと生育の進みはほぼ平年並みとなりました。5月1日頃に移植したほ場はやや早い～平年並みの生育となりました。

高温傾向だったこともあり、全籾数がやや多くなった一方で、7月の日照が少なかったために粒の肥大が抑制され登熟が悪くなり、7月が登熟期間となる早生品種を中心に収量の減少が見られました。

病気に関しては、梅雨の影響でいもち病や稲こうじ病の病徴が見られるほ場が一部ありました。しかし、その他の病害虫も含めて、適切な防除が行われたため、大きな被害にはなりませんでした。

2 今年度の君津地域の作況概況について

関東農政局発表の本県の作況指数（10月15日現在）は「99」であり、概ね平年並みになりました。一方、君津地域を含む南房総地域は作況指数がやや不良の「97」であり、作柄調査も早生品種を中心に収量低下が見られました。

減収の最も大きな原因は、7月の寡日照条件により登熟が悪くなり、玄米の充実が悪くなったためと考えられます。4月中に植えたほ場では前半の生育が不足し、莖数が確保しにくかったことも減収を助長しました。

一方、品質については、斑点米カメムシ類の発生が多かったものの、適期に航空防除が実施されたため、大きな被害にはなりませんでした。

3 来年度に向けて（収穫後の耕うんの重要性について）

稲わらを土中にすき込むことは以下のように多くの利点があります。また、冬の耕うんならではの利点もありますので、是非実施しましょう。

① 稲わらの腐熟促進

稲わらの分解には土壌中の微生物の働きが必要です。寒くなると微生物の活動が鈍くなるので、なるべく早く耕起しましょう。稲わらの分解が遅れ、移植時期に有機物の分解が進んでしまうと、「ワキ」と呼ばれる植物の根に有毒なガスが出て、水稲の生育抑制につながります。なるべく早くすき込みを行い、稲わらを分解させましょう。

② 一部の難防除性雑草の発生抑制

難防除性雑草の中でも、オモダカやクログワイについては、塊茎が低温や乾燥に弱いため、冬期までに耕起を行い、塊茎を地表面にさらすことで、塊茎量を減らす効果があります。また、地上部の埋没や茎・根の切断といった物理的な防除効果も期待できます。

③ イノシシ等鳥獣被害の抑制

落穂や2番穂が残っているとイノシシ等鳥獣の餌場となります。一旦餌があることを覚えてしまうと、ほ場への侵入を繰り返すようになり、翌年の被害につながりやすくなります。稲刈り後はすぐに耕起し、餌場とならないようにしましょう。

④ イネばか苗病対策

ばか苗病菌の胞子は、収穫した稲わら、米ぬか、籾殻等に存在し、翌年の発生に繋がります。イネばか苗病の発生が見られたほ場では、すき込みを行い、稲株を土中に埋没させることで菌密度を下げることができます。また、作業場の中でも、特に浸種や催芽、播種する場所の周辺を清掃し、収穫した稲わら、米ぬか、籾殻を無くすことで、菌の密度を下げましょう。

水稻採種ほ場の周辺 200メートル以内にイネばか苗病発生ほ場があると、種子にできなくなり、水稻種子生産に大きな影響を及ぼします。君津地域は県内で有数の種子産地であるため、地域全体での対策への協力をお願いします。

4 来年度に向けて（育苗時の温度管理について）

今でも、苗半作の言葉どおり育苗の出来不出来が生育に及ぼす影響は大きいです。

今年度のように育苗時期の気温変動が特に大きかった年は、栽培管理の違いが生育に大きな差を及ぼします。

下図を改めて確認し、最適な温度帯での管理を実施しましょう。

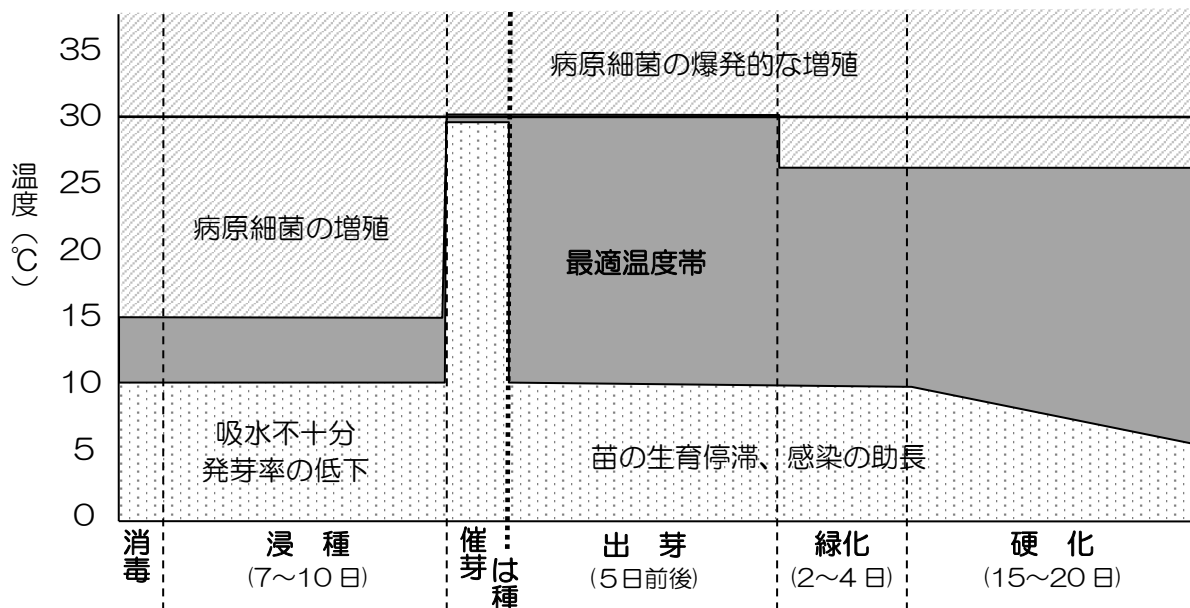


図 無加温平置育苗における最適温度帯

5 種子保証票の保管について

種子保証票はどこの誰が生産した種子であるかを確認できる重要なものです。何か事故が起きた時には保証票が証明になるため、捨てずに収穫時まで保管しましょう。

令和2年度の稲作では大変お世話になりました。

来年以降も引き続き、よろしくお願いします。

ご不明な点等ありましたら、お気軽にお問合せください。

—農業事務所より郵便で配信している方へお願い—

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。

電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 宇津木 i.utsg2@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）